

身近な病 腹部の色々なヘルニア ～その原因、注意すべき症状と治療～

腹部のヘルニアは、腹壁にできた隙間などから臓器がはみ出て膨らみや痛みを生じ、手術が必要となる病気です。そけい部のヘルニアは「脱腸」としてよく知られていますが、そけい部だけで年間約15万件の手術が行われている身近な病気です。臍、手術創、腹腔内部や横隔膜などにもヘルニアは見られ、症状が軽く様子を見ている間に腸閉塞で緊急手術となることもあります。手術の方法は近年大きく変わり、腹腔鏡手術が増加しました。腹腔鏡手術は、専用の機器と熟練を要しますが、傷が小さく社会復帰が早いので、他の部位のヘルニアにも広まりつつあります。本講座では、腹部のヘルニアの原因、症状と腹腔鏡手術を中心とした当院での治療について、イラストや模型での手術映像を用いてわかりやすく解説致します。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2021年3月27日(土) 場所：山王病院 本館3階 山王ホール
時間：14:00～15:00 (開場13:30) 定員30名 完全予約制 参加無料



磯部 陽 (いそべ・よう) 医師

消化器センター長 国際医療福祉大学 臨床医学研究センター教授
専門：消化器外科（一般・消化器外科、腹腔鏡下手術（胃がん、胆石、そけいヘルニア等））

慶應義塾大学卒、医学博士
前慶應義塾大学医学部客員准教授（外科学）、前国立病院機構東京医療センター特命院長補佐・統括診療部長・緩和ケアセンター長・医療情報部長・外科医長、前東京医療保健大学大学院看護学研究科臨床教授、元国立病院機構東京医療センター内視鏡センター長
日本外科学会認定指導医・外科専門医、日本消化器外科学会認定指導医・消化器外科専門医・消化器がん外科治療認定医、日本消化器内視鏡学会認定指導医・消化器内視鏡専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、ロボット（da Vinci Si）手術認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本腹部救急医学会腹部救急暫定教育医、日本医師会認定産業医

専門である胃がんに対する低侵襲手術（腹腔鏡下・ロボット支援下手術）とともに、胆石症、そけい部・腹壁ヘルニア等の腹腔鏡下手術を多数行ってきました。消化器がんの化学療法、緩和医療の経験も豊富で、関連診療科と連携しながら、患者様の病状とご希望を考慮した最適な医療をご提供することを心がけています。また、診療チーム全員が最大の力を発揮できるよう、新たな手術トレーニング、看護師教育、医療安全等のシステム開発にも取り組んでいます。

～参加方法～ 感染拡大防止のため、当日会場での聴講と後日Web視聴の2つの方法で行います。

- 会場聴講：定員30名 完全予約制（定員になり次第締め切ります。当日定員に満たない場合はご入場いただけますが、感染拡大防止のため、定員を超えた場合は会場にはお入りいただけません。）
以下の事項を記載の上、FAX またはHPのお申込フォームのいずれかでお申込みください。
FAX：03-3404-3652（さんのう健康講座事務局宛て）
- Web聴講：HPのお申込フォームからお申込みください。お申込みいただいた方に、会場撮影した映像を後日メールにて配信いたします。 [申込フォームにアクセス⇒](#)



※太枠内は必須項目です。

お名前（フリガナ）		参加人数	名 ※最大2名まで
お電話	〒	ご住所	